

# ふるさと水辺の生き物教室

## 東出泉地区



東予地方局農村整備課

## 1. 生き物教室の概要（がいよう）

開催日時：平成27年6月12日（金） 9：15～15：00

開催場所：四国中央市土居町東出泉地区

講師：松山東雲女子大学 石川和男名誉教授  
愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター  
嘱託研究員 久松定智博士

参加者：四国中央市立小富士小学校 2年生26名  
先生 2名

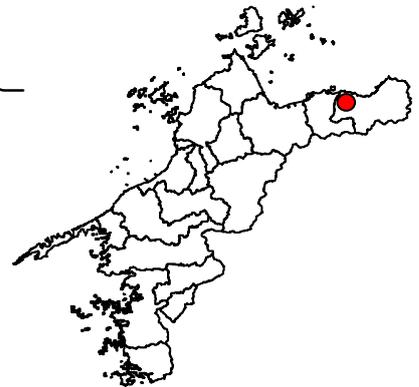
中村みどりの会 7名

ふるさと水と土指導員 脇斗志也

愛媛県東予地方局農村整備課 11名

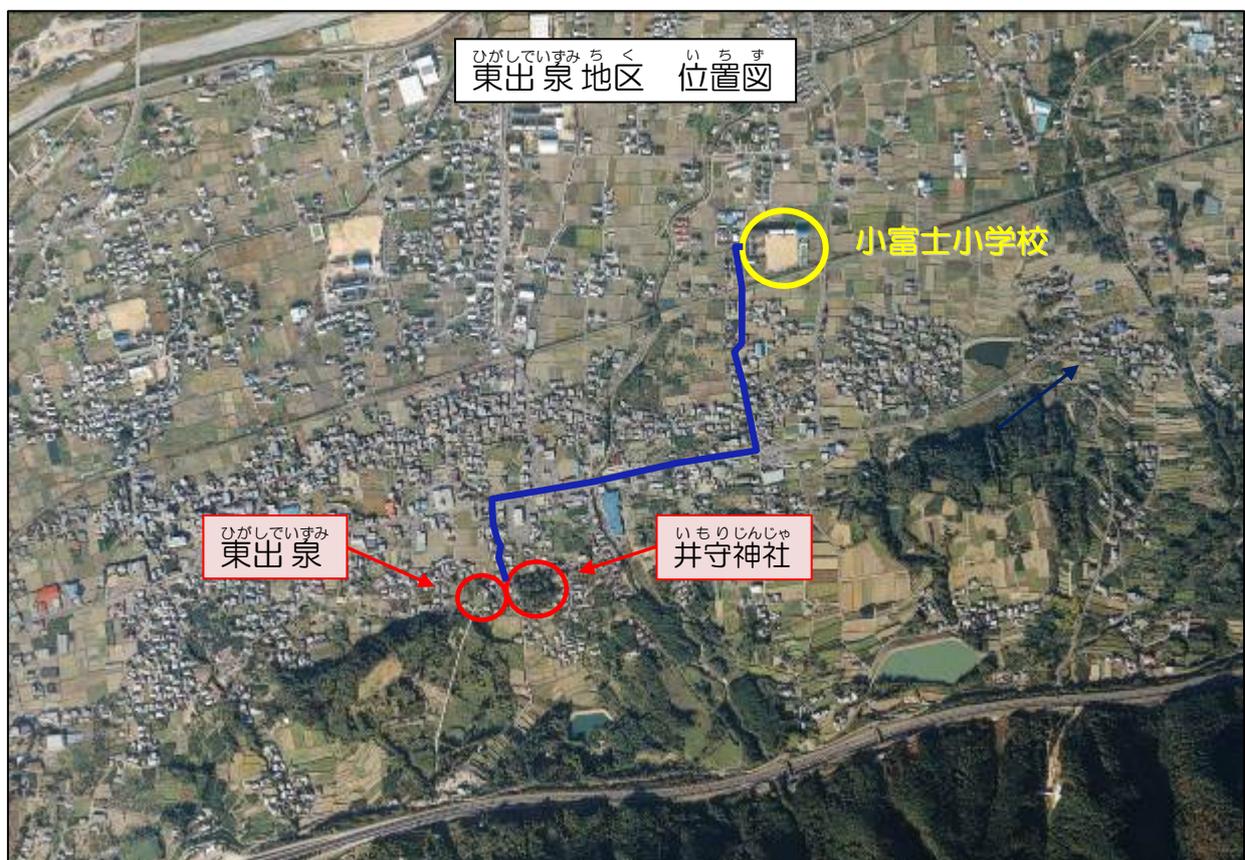
四国中央市役所農林水産課 3名

水土里ネット愛媛 6名



## 2. 地区の概要（がいよう）

四国中央市土居町の中央部に位置する小富士小学校の校区は、藤原、小林、中村、根々見の4集落からなります。南に赤星山をひかえ、北は穏やかな瀬戸内海の燧灘に面しており、2級河川檜木川と関川に挟まれた田園風景の広がる農村地域です。子どもたちは、地域の豊かな自然と文化と人のぬくもりを肌で感じながら、心豊かに育っています。



### 3. 生き物教室の内容（ないよう）

今回の生き物教室は、小富士小学校の2年生26名を対象として行われました。調査は東出泉と井守神社の2箇所で、現地までマイクロバスで移動しました。



#### ○校長先生のお話（小富士小学校 後藤正樹校長）

おはようございます。今日は朝方、雨が降ったので、もしかしたら生き物教室ができないかもしれないと思いましたが、お天気も味方をしてくれ、こんなにあったかくていい条件で、ふるさと水辺の生き物教室ができることになりました。雨が降った場合は、教室でお話を聞いて標本を見るという内容でしたが、みんなが一番楽しみにしていたのは、東出泉へ行き、色々な生き物を探ることだったのではないかと思います。

先ほど愛媛県の方は、色々な生き物を探し、名前をおぼえてくださいとおっしゃいましたが、みなさんはちょうど今、生活科で生き物の名前を勉強していますね。また3年生になれば、理科という教科で勉強することになります。いい経験になりますので、たくさん探して、また色々な話を聞いて、いい勉強にしたいと思います。

今日はこのようにたくさんの方が、みなさんの活動に協力をしてくださいました。みなさんのために色々な準備をしてくださいました。こんなすばらしい経験ができるのは、支えてくださる方がいるからです。そういうことに感謝をしながら、今日も一日いい勉強になることを祈っております。みなさんよろしくお願いたします。



さいしゅうほうほう せつめい ちゅういじこう  
○採集方法の説明・注意事項（松山東雲女子大学名誉教授 石川和男先生）

- 「見れども見えず 聞けども聞こえず」という言葉がありますが、よく見て、よく聞いてアンテナを張り巡らせ、ふるさとの素晴らしい自然を発見しましょう。
- 色々なところに色々な生き物がいます。小川の水面、水中、底の石ころ、泥の中、水草、岸辺の草や木の葉など、よく探してみましょう。
- 捕まえた生き物は大切に持ち帰り、スケッチの後は元に戻します。命がなくなると再びつくることはできないのですから。



ものさいしゅう  
○生き物採集

せつめい ちゅういじこう う まち ま さいしゅう はん ひがしていすみ  
説明や注意事項を受けたあとは、待ちに待った採集のはじまりです。班ごとに東出泉と井守神社に分かれ、生き物採集を開始しました。



○<sup>もの</sup>生き物の<sup>どうてい</sup>同定（<sup>なまえしら</sup>名前調べ）・<sup>かんさつ</sup>観察

学校へ<sup>か</sup>戻<sup>おし</sup>ってからは採<sup>しゅう</sup>集した<sup>もの</sup>生き物の<sup>かんさつ</sup>観察です。石川先生から、<sup>もの</sup>生き物を<sup>きょうみ</sup>スケッチする時の<sup>つか</sup>コツや<sup>もの</sup>描きかたを<sup>えら</sup>教えてもらい、自分たちが<sup>なまえ</sup>捕<sup>とくちょう</sup>まえた<sup>しら</sup>生き物の中から<sup>しら</sup>興味のあるものを選び、<sup>しら</sup>名前や<sup>しら</sup>特徴を調べていきました。



## 〇生き物講座（松山東雲女子大学名誉教授 石川和男先生）

- スライドを見たりカエルの鳴き声を聞いて、生き物の見分け方やゲンジボタルの一生について学びました。
- 名前がわかると親しみがわき、色々なことを調べることもでき、簡単に人に伝えることができます。
- 食事の前に「いただきます。」というのはどうしてでしょうか。  
お米や野菜、果物、家畜やニワトリ、魚などを育てて下さった人、お料理を作ってくださった人たちへの感謝の心ですね。ほかに動物や植物の命をいただいているため。
- モンシロチョウはキャベツを食べて育ちますが、ヒトは色々な種類の動物や植物を食べます。好き嫌いなくおかずを食べると、栄養分もたくさん摂れて勉強もよくできるようになるでしょう。  
食べ物のほか、これはベトナムの山の中で農家の人にいただいたトウシキミの実ですが、この実からインフルエンザのお薬になるタミフルができました。
- 農家の人にとっては、害虫が増えると作物に被害が出るので良くありません。今、イノシシやシカが増えて農家の人は困っていますが、その原因はイノシシやシカを食べるオオカミがいなくなったからです。オオカミを滅ぼした人間がオオカミの代わりをしなければなりません。
- 森や川や海にすんでいる生き物は、「食べる、食べられるの関係」でジグソーパズルのようにつながり合い、支え合ってバランスをとって生きています。例えば、アゲハチョウでは卵、幼虫、成虫は、ハチ、クモ、カマキリ、カエル、鳥などによって食べられるため、産卵された200~300個の卵のうち成虫になれるのは数個体といわれています。役に立たない生き物はいません。そのつながりの中で人も生かされているので、自然や生き物を大切にしましょう。
- もともと外国にすんでいたアカミミガメ、ブラックバス、ブルーギル、アメリカザリガニ、ジャンボタニシなども、日本の動植物と初めて出合ったために色々な問題を起こしています。例えば、もともと日本にすんでいたクサガメや魚が減ってきました。みんなで気をつけましょう。
- 水の中にすんでいる生き物を調べると、その水がきれいなのかどうかわかります。
  - きれいなところ…ヒラタカゲロウ、プラナリア、サワガニなど。
  - 少し汚いところ…ゲンジボタル、カワナ、コオニヤンマ、スジエビなど。
  - 汚いところ…ミズカマキリ、タニシ、ミズムシ、ヒルなど。
  - 大変汚いところ…セスジユスリカ、イトミミズなど。
- さきほど、水路で採れたプラナリアを全員に実体顕微鏡で見てもらいました。  
プラナリアは、体をバラバラに切断しても再生できる強い生命力をもっています。中学の理科の授業で出てくるので思い出してください。
- さっき行った泉にカワナがいました。夜にはゲンジボタルが飛びそうです。



- 生き物の名前を調べ、よく観察して、いつも「なぜだろう」と考えてみましょう。
  - なぜ、そこ（環境）にいるのだろう？
  - 何を食べて、何に食べられるのだろう？
  - 他の生き物とのつながりは？
  - その生き物は、どんな役割を果たしているのだろう？
  - その生き物と、私たちの関係は？
  - 私たちは、どうすればよいのだろう？

「今日のまとめ」

みなさんは今日、ふだん何気なく見ている自然の中に新しい発見がありましたか。愛媛県では少なくなっているトノサマガエルや、きれいな水にすむプラナリアなど多くの生き物が見つかったので、ふるさとに素晴らしい自然があることがわかったと思います。

田んぼや畑は農作物をつくるための人工的な自然ですが、みなさんは大昔からある自然にも興味をもって、自然と共に生きるためにどうすればいいかみんなでおおむかし話し合い、いつでも、どこでも、できることから始めましょう。



○生き物講座（愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター嘱託研究員 久松定智先生）

- アカハライモリは、水の中にいて蚊の幼虫やヤゴを食べる。お腹が赤いからアカハラという名前がついた。
- イモリは井戸を守るのでイモリといい、水の中にすんでいる両生類。ヤモリは家を守るのでヤモリといい、爬虫類。
- トノサマガエルは、主に田んぼの周辺にすんでいて最近数が減っている。他のカエルと見分け方は、背中に一本白い線がある。
- オニヤンマの成虫は、日本で一番大きいトンボといわれている。
- 日本で一番小さいトンボはハッチョウトンボといい、10円玉くらいの大きさしかない。
- オニヤンマは、幼虫のとき2年～3年くらい水の中にすんでいるが、成虫になると1ヶ月くらいで死んでしまう。
- ムカシトンボは、幼虫のとき水の中で7年くらい生きている。
- アメリカザリガニは、名前のとおりアメリカからきたザリガニで、アメリカの南の方では鍋で煮込んで食べている。
- アメリカザリガニが日本に入ってくると、オタマジャクシやヤゴ、水草など何でも食べてしまうので、川などに放さないようにする。

＜今日捕れた生き物＞

- |           |            |                          |
|-----------|------------|--------------------------|
| • アカハライモリ | • オニヤンマのヤゴ | • アメリカザリガニ<br>(アメリカからきた) |
| • トノサマガエル | • カワニナ     | • ラミーカミキリ<br>(中国からきた)    |
| • オイカワ    | • ミミズ      |                          |
| • タカハヤ    | • カタツムリ    |                          |
| • サワガニ    |            | など                       |



かんそうはっぴょう  
感想発表

高橋 玲央くん

今日は、イモリと魚が2匹ずつ捕れてうれしかったです。また、魚やイモリは命があるので大切にしたいと思います。ありがとうございました。



安藤 七星さん

今日、一番楽しかったのは釣りです。ザリガニが釣れたのがうれしかったです。ありがとうございました。

白石 泰雅くん

今日はとても楽しかったです。色んな生き物が捕れてうれしかったです。ありがとうございました。



村関 伶介くん

今日は、色んな生き物がいっぱい捕れて楽しかったです。ありがとうございました。

伊藤 玲葵くん

今日は楽しかったです。一番楽しかったのは、ザリガニの釣りをしたことと、魚が捕れたことです。ありがとうございました。



## ○挨拶（中村みどりの会 加藤弘明代表）

みなさん、今日はどうでしたか？楽しかったでしょう？あの泉はおじさんたちが小さい頃の遊び場で、お魚を釣っていました。それから、昔はホタルも飛んでいました。でも、台風で泉がつぶれて水がでなくなり、何年も荒れていたのですが、県の補助により泥上げをし、ようやく今日捕れたようなお魚も戻り、ホタルも飛びはじめています。お父さんやお母さんと一緒にホタルを見にきてくれたらうれしく思います。ただ、泉には草がたくさんあり、ヘビも出るので長くつをはいて来てください。



講師の先生方、愛媛県や地域のみなさん、今日はありがとうございました。小学校の先生方にも本当に感謝をしています。これからも地域を守り育てるため、地元の方と力を合わせ、みなさんに楽しんでもらえるような泉にしたいと思いますのでまた遊びに来てください。

## ○挨拶（ふるさと水と土指導員 脇斗志也さん）

石川先生、久松先生、今日はよい授業をどうもありがとうございました。小学校の先生にも大変お世話になりました。また、加藤さんはじめ、地元のみなさん、愛媛県や四国中央市の方にもお世話になり、ありがとうございました。



2年生のみなさん、今日は楽しかったですか？勉強になりましたか？みなさんの周りの人達にも、今日学んだ自然を大切にすることを伝えてください。私たちもおいしいお米や野菜を作り、みなさんに食べてもらえるようにがんばります。みなさんが大人になった時、きれいな地元で仕事ができるよう、勉強を一生懸命がんばってください。今日は一日ありがとうございました。

## 4. おわりに

今回のふるさと水辺の生き物教室で、身近な場所にも多くの生き物がすんでおり、それぞれが共生していることが分かりました。最初は見るのも初めてという生き物もいましたが、多くの児童が実際に触れ、講義を通し、生態を知ることができました。

今日学んだことを機会として、生き物や自然環境をはじめ、自分たちが住んでいる地域の様々なことに関心が高まることを期待しています。